

「誘発喀痰を用いた慢性閉塞性肺疾患の診断および治療効果の評価」 について

○ 研究の意義・目的

慢性閉塞性肺疾患(COPD)における気道炎症の特徴や治療の効果を明らかにするために、誘発喀痰(高濃度の食塩水を吸入して採取した痰)に含まれる細胞や蛋白を調べます。

○ 研究対象者

2012年11月27日～2013年12月31日の間に広島大学病院呼吸器内科において「日本人COPD患者、non-COPD喫煙者、non-COPD非喫煙者を対象とした気道・全身性炎症の比較評価研究」に参加された患者さん、2005年1月1日から2014年12月31日に広島大学病院において誘発喀痰検査を受けた慢性気管支炎患者さん、COPD患者さんを対象とします。

○ 研究方法

本研究は、上記期間に採取した誘発喀痰および診療録(カルテ)情報を用いて行います(個人が特定出来る情報は含まれません)。年齢や性別、肺機能検査や胸部X線・CT検査の結果、受けられている治療の内容などを研究に使用します。通院継続されている方については、5年間程度の期間で肺機能検査の結果を追跡します。喀痰の炎症関連物質(NGAL、MPO、YKL-40、Periostin、IL-6、IL-8、IL-13、TNF- α 、IL-17、IL-23、IL-25、IL-33、TSLP等)と臨床データの関連を分析し、COPDの病態を明らかにすることを目的とします。

○ 広島大学単独での研究のため、本研究において外部への試料・情報の提供はありません

○ 研究期間 実施許可日 ～ 2028年12月31日

(試料・情報の利用開始日 実施許可日(2014年11月17日)以降)

○ 個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。

*研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても今後の診療等に不利益が生ずることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されている場合には、提供していただいた情報や試料に基づくデータを結果から取り除くことが出来ない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人が識別できる情報は含まれません。

また、本研究に関するご質問等あれば下記連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報等の保護や研究の独創性確保に支障がない範囲内で、研究計画書および関連書類を閲覧することができますので、お申し出ください。

不明な点がございましたら下記のところまでお問い合わせください。

.....

お問い合わせ先

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5196

広島大学病院呼吸器内科 教授 服部 登 (研究責任者)

准教授 岩本 博志 (担当者)